

いよいよ2学期のスタート！

1週間短くなった夏休みも終わり、教室や運動場に子ども達の元気溢れる声が響き、学校に活気が戻ってきました。この夏は、7月豪雨の後から猛暑が続き、まだまだ残暑厳しい毎日が続きます。大きな事件・事故、病気等の報告もなく、元気な笑顔を見ることができ、大変嬉しく思います。

暑い夏休みの間、5・6年生全員が当番として、学年で使用している畑などの水やりを頑張ってくれました。また、8月20日には、体育委員会の児童がプール清掃も頑張ってくれました。高学年としての自覚を持ち、責任を果たす姿はとても素晴らしいです。暑い中、本当にありがとうございます。

8月21日から、5・6年生を対象に夏休み後半の水泳教室を実施しました。一人ひとりが泳げる距離や25mあるいは50mのタイムなどの目標達成に向けて頑張りました。自分の力を試す場、もっと記録を良くしたいという思いをさらに強くする場として、30日に地区別水泳記録会が予定されています。出場する5・6年生の皆さんは、自分の力をしっかりと出し切り、自分の記録更新に挑戦して欲しいと思います。ご家庭におかれましても、励ましの声かけをお願いします。

さて、1学期の終業式の日、あゆみとともに持ち帰った「あゆみの変更点について」でお知らせしましたように、本年度より「特別の教科 道徳」がスタートしています。1年生で年間34時間、2年生以上で35時間を標準時間数としています。今までも「道徳の時間」として同じ時間数、授業に取り組んできたのですが、何故、どのように変わったのでしょうか。

背景には、深刻で痛ましいいじめに関する問題が多発していること。スマートフォン等によるSNSの利用など、情報通信技術の発展によって子どもたちの生活と密着し、トラブルが多発していること。高校生の自己肯定感や社会参画への意識が、諸外国と比べて低いということ。決まり切った答えを見つめるだけでは解決できない問題等が山積する社会状況であること。など、他にも多くの要因が考えられています。そこで、一人ひとりが、道徳的価値を自覚し、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることが重要であり、その育成に、道徳教育が大きな役割を果たす必要があると考えています。

そこで、「読み物教材の登場人物の心情理解のみに終始」したり、「望ましいと分かっていることを言わせたり書かせたりすることに終始」するような授業ではなく、「自分のこととして、広い視点から考える」など、考え、議論する授業への転換が求められています。一例ですが、

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やその時の心情を、様々な視点から考える。
- ・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解する。
- ・道徳的な問題に対して自分が取り得る行動を他者と議論し、その価値についての理解を深める。
- ・道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考える。

などの学習活動が必要であると言われていています。尼崎市では、文部科学省の検定を受けた「みんなの道徳」という教科書を使用して授業を行い、上のような観点に着目して、子どもたちがどのように学習に取り組んでいるのかという学習状況や、道徳性についての成長の様子を継続的に把握し、文章で評価します。「誰に対しても親切に接することができます。」などのような「道徳的行為」の評価とは違います。本校においては、1・2学期の学習状況については2学期に、3学期分については3学期にあゆみに記入します。

道徳教育のみならず、各教科をはじめとする全教育活動を通して、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながらよりよい方向を目指す資質・能力の育成に努めてまいります。2学期も、どうぞよろしくをお願いします。